

切り抜きを整理していたら、69回望月照正さんの朝日新聞オピニオン欄への投稿が見つかった。陸軍松本飛行場建設に駆り出された松中先輩の思い出だ。同期に熊井啓さんがいて「私の信州物語、岩波現代文庫2010」にも詳しく紹介されている。D51で村井駅まで行き、徒歩で現場（現松本空港）へ。来る日も来る日も重労働。疲労困ぱいの中、昼休みに先生が授業をして呉れたそう。我が母校伝統の礎一端を伺わせるひとこまと思った。

その頃（1944年）のこと。昨年6月8日に亡くなられた小野先生（70回）から一昨年、福島君のキングサーモンでお聞きした「医専騒動」（これも上記熊井さんの書に詳しい）。東條らはまだ戦争を続けるつもり。軍医が足りない。医学専門学校（現信大医学部）を設置しようにも場所がない。松中の一部（一棟や裏門近くの解剖用死体置き場）が召し上げられた。その過程で清水謙一郎校長以下全校上げて（67回の上島忠志先生も先頭の一人）大反対。結局校長辞任で収まったそう。退職される清水校長先生が詠まれた「ももとせの後（のち）を思えば楽しかも松中健児は国のいしずゑ」。小野先生がすらすらと謳って下さった。